

教科・科目	対象学年	単位数	教科書（発行者）	補助教材（発行者）
音楽器楽 (管楽器)	3年 (音楽コース)	2		音階（各楽器の基本的な形式） 各自が用意する教則本 曲は各自の進度に応じて選曲
科目の概要と目標	管楽器演奏の要となる音色作りを基本とした奏法を身につける。また、必要なテクニックを身につけ、各自が専攻する管楽器を通して、個性や音楽性を表現できる高度な技術習得を目指す。			
授業の進め方	年間を通じて個人レッスンの形態で行う。基礎基本である、ロングトーンや音階練習を毎回行い、奏法に関する研究を積む。また各自に与えられた教則本や、独奏曲も同時進行で行うため、練習時間確保が鍵である。まず、よくさらい、研究し、意欲的且つ素直な気持ちでレッスンに臨むことが大切である。			
評価の観点と方法	第1学期の実技試験では、「スケール」（全調より）「自由曲」の合計点が評価となる。 第2学期は公開実技試験での演奏（スケール・自由曲。自由曲は受験課題曲が一般的）の点数が評価となる。 楽器演奏上の音色や技術だけでなく、音楽の構造への理解、音楽的な解釈の妥当性、曲の完成度、本人が音楽的に表現しようとしているか等を評価する。			
	学期	単元・学習項目		学習内容・到達度目標
年間 の 授 業 内 容	1 学 期	音色作り 音階・アルペジオ（全ての調より） 教則本 各自の選択曲		[内容] ・奏法の確立(美しく安定した音色・音域の拡大) ・ダイナミクスレンジの拡大 ・演奏テクニックの充実 ・奏法上の弱点の補強 ・より音楽的な表現の工夫 [到達度目標] ・それぞれの楽器が持っている本来の美しさを追求した音色作りを目指しているか。 ・音域による音色や音程のムラがなく、各楽器らしい音色を奏でているか。 ・楽譜に忠実な演奏を目標としているか。 ・楽曲の構成をふまえた演奏ができる。 ・各自の音楽性を演奏に生かし、より高度な表現を目指しているか。
	2 学 期	音色作り 音階・アルペジオ（全ての調より） 教則本（受験課題の物） 各自の選択曲(主に受験曲)		
	3 学 期	各自の選択曲(受験曲)		